【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成17年1月27日(2005.1.27)

【公表番号】特表2004-501275(P2004-501275A)
【公表日】平成16年1月15日(2004.1.15)
【年通号数】公開・登録公報2004-002
【出願番号】特願2001-570402(P2001-570402)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ２２Ｃ　30/00
　Ｂ２２Ｆ　 1/00
　Ｃ２２Ｃ　32/00
　Ｃ２３Ｃ　 4/06
【ＦＩ】
　Ｃ２２Ｃ　30/00
　Ｂ２２Ｆ　 1/00　　Ｚ
　Ｃ２２Ｃ　32/00　　Ｚ
　Ｃ２３Ｃ　 4/06

【手続補正書】
【提出日】平成14年11月8日(2002.11.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
式：
Ｍ－Ｃｒ－Ａｌ－Ｙ－Ｘ
［式中、Ｍは、ニッケル、コバルト、及び鉄からなる群より選択される少なくとも一の金属であり；
Ｘは、少なくとも一の反応性元素である］
を有し、イットリウムが、全組成物の約４重量％乃至約６重量％のレベルで存在する超合金を含む、高速酸素燃料溶射粉末。
【請求項２】
クロムが、全組成物の２０－３５重量％のレベルで存在する、請求項１に記載の粉末。
【請求項３】
アルミニウムが、全組成物の５－１５重量％のレベルで存在する、請求項１に記載の粉末。
【請求項４】
前記の少なくとも一の反応性元素が、ハフニウム、レニウム、ランタン、及びタンタルからなる群より選択される、請求項１の粉末。
【請求項５】
前記の少なくとも一の反応性元素が、全組成物の２－１０重量％のレベルで存在する、請求項１または４に記載の粉末。
【請求項６】
（ａ）式：
Ｍ－Ｃｒ－Ａｌ－Ｙ－Ｘ
［式中、Ｍは、ニッケル、コバルト、及び鉄からなる群より選択される少なくとも一の金

属であり；
Ｘは、少なくとも一の反応性元素である］
を有する第一超合金であって、イットリウムが前記の第一超合金の１重量％より高く約６重量％までのレベルで存在する超合金；及び
（ｂ）式：
Ｍ’－Ｃｒ－Ａｌ－Ｙ
［式中、Ｍ’は、ニッケル、コバルト、及び鉄からなる群より選択される少なくとも一の金属である］
を有する超合金とセラミックとの凝集物；
を含む高速酸素燃料溶射粉末。
【請求項７】
前記セラミックが、アルミナ、イットリア、及びガーネットからなる群より選択される、請求項６の粉末。
【請求項８】
前記セラミックが、前記凝集粒子の１５重量％のレベルで存在する、請求項６の粉末。
【請求項９】
前記セラミックが、全組成物の３－１５重量％のレベルで存在する、請求項６の粉末。
【請求項１０】
前記セラミックが、全組成物の４．５－７．５重量％のレベルで存在する、請求項６の粉末。
【請求項１１】
前記凝集粒子が、全組成物の３０－５０重量％のレベルで存在する、請求項６の粉末。
【請求項１２】
イットリウムが、前組成物の約４重量％のレベルで存在する、請求項１に記載の粉末。
【請求項１３】
第一超合金のイットリウムが、前記第一超合金の約１．５重量％乃至約５．５重量％のレベルで存在する、請求項６の粉末。
【請求項１４】
第一超合金のイットリウムが、前記第一超合金の約４重量％のレベルで存在する、請求項６の粉末。